

3 空気調和設備・換気設備

番号	対策の名称
⑤	サーキュレータ等の適切な運用
内容	<p>空調範囲や温度ムラがあるときは、空気の循環を目的にサーキュレータ等を使用して解消することが考えられます。サーキュレータ等の使用には、執務室の状況に応じて風向き・設置場所に気を付ける必要があります。以下、一般的なサーキュレータの運用方法を示します。</p> <p>○室内機の吹き出し口に向ける サーキュレータの風を吹き出し口に向けて部屋全体に拡散させ、空調範囲のムラを解消します。室内にデスク等の障害物が多く、空気の流れることが難しい場合に有効とされています。</p> <p>○冷房時は床に水平、暖房時は天井に向ける</p> <p>「温かい空気」は比重が軽く室内の上部にたまります。他方、「冷たい空気」は下部に溜まります。部屋全体を温めるには、サーキュレータの風を天井に向けて、部屋の空気を動かします。冷房時は床にたまった冷たい空気を吸込み、床に水平に吐き出すことで室内に冷たい空気の流れができると言われています。</p> <div data-bbox="1059 533 1445 801" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1193 810 1235 837" data-label="Caption"> <p>図1</p> </div> <div data-bbox="408 1070 1327 1473" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1353 1438 1394 1464" data-label="Caption"> <p>図2</p> </div> <p>図1、2は「クール・ネット東京（東京都環境局）」のサイト 業種別エネルギー対策テキスト「美容室」「幼稚園・保育園」より引用</p> <p>https://www.tokyo-co2down.jp/assets/company/seminar/type/text/beauty_salon.pdf https://www.tokyo-co2down.jp/assets/company/seminar/type/text/kindergarten.pdf</p>
効果	<p>室内温度の均一化を図ることで、無駄な冷やし過ぎや暖め過ぎを防止し、空調機の効率的な運転ができることで、エネルギー消費量削減につながります。</p>
ポイント	<p>実施時は、主な検討として以下が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調機器とサーキュレータの位置やサーキュレータの送風向きなどの調整 ・空気の流れを妨げないような什器類の配置調整